



かがやく麻生中!

令和7年12月19日発行 第49号
 行方市立麻生中学校
 住所:行方市南327-3
 電話:0299-80-8070

自分の思いや考えを表現し課題解決しようとする(語り場 学び場 麻生中)

～「令和7年度 行方市郷土と社会を切り拓く課題解決型学習プログラム」発表会の実施～

12月19日(金)に行方市教育委員会、行方市内小中学校7校をオンラインでつなぎ、生中継で各校の研究内容の発表並びに質疑応答を実施しました。各小中学校ともに、行方市の課題や魅力について調査し、課題を改善するための建設的な提案を行うことができました。

本校では、過日実施された校内報告会で優秀発表を行ったグループが代表として、発表しました。

内容は、よりよい行方市となるように「つくば霞ヶ浦りんりんロード」の整備・充実による観光・産業・雇用・魅力等の創出です。14市町村をまたぐ、りんりんロードを各市町村と連携し、整備する。全長180kmのりんりんロード中で行方市の区間は約25km。その区間に地産地消のお土産屋、飲食店、歴史文化的施設、宿泊施設等を整備する。整備費はクラウドファンディングや11市町村からの協礼金等から支出する。京都の観光産業や滋賀県の「ビワイチ(琵琶湖一周サイクリングコース)」をケースモデルとして、サイクリングロードを整備する。このことで産業発展、地域発展、地産地消推進につなげ、行方市の魅力を発信し移住者増加へもつなげていく。

以上のような内容を発表した3年生代表グループは、堂々とわかりやすく、丁寧に落ち着いて発表し、行方市への質の高い提案をすることができました。今後、行方市教育委員会をとおして、市長部局や市議会に本提案が届けられる予定です。



～教員の資質能力向上のための授業実践～

12月8日(月)～19日(金)に10人の教職員が研究授業を実施しました。本事業は教職員の研修や授業研究準備・実践をとおした教職員の資質・能力の向上を図ることを目的としています。現在、部活動のオフシーズンを下校時の生徒の安全確保とともに教職員の資質能力の向上期間としても位置付けています。教職員は、教材研究をし、授業で使用する教材を準備し授業構想を練って授業実践を行います。今年度本校では、以下の観点で授業を展開しようと、研修・教材研究・研究授業を行っております。生徒にとって学び多い学習指導は一朝一夕にはつくれませんが、生徒が身に付けるべき資質能力を身に付けられるよう、更なる授業改善を図ってまいります。



【麻生中学校授業実践のポイント 麻生中学校グランドデザインより】

- (1) 自分の思いや考えの表現
 - ① 生活・実体験・実社会と関連付けた「なぜ・どうして」が生まれる学習課題
 - ② 学びの視点、問い、自己決定のある学習指導
 - ③ 「聴く・つなぐ・もどす」をとおした対話的学びによる課題解決
- (2) 考えの再構築・新たな価値の創造
 - ① 考えの「比較 分類 整理 関連付け」による吟味
 - ② 考え直し・言い直し(リフレーミング・リライト・リフレーズ)
 - ③ 振り返りによる自己評価・自己調整※常時的ICT機器活用

<冬仕様の環境整備> 生徒や来校される方々の心の和みになればと考え、環境整備委員の生徒や本校職員が、冬仕様の環境整備を行っています。

